られる原因のやうである。此事は即ち日本のゴム製品の多くが最近數ヶ年の間に著しい値上りも見せずに其品質に於て格段の進歩をなしたことに依つても實證し得られやう。即ち政府當局の極めて嚴正な輸出検査は日本ゴム製品の品質を斷然向上せしめたのである。

今日迄多くの國々に於ては輸入税を課すること等の手段に依つて其國內産業を保護し來つたが、私一個の意見をしてはかゝる手段は現在にあつてこそ唯一の方策かも知れぬが、決して永久的な救済策とは考へることが出来ない。進歩とか自然的發展とかゞ決して人爲的方法に依つて或程度の期間以上に互つては阻止し得ざることとは疑を容れぬ事實である。

私個人としては我々は今や何等かの點に於て日本人から學ぶ時期が到來したと信ずるもので、私の自ら経験した所に依て私は、若しも我々が日本の製造家即ち同業者に對して對等の條件の下に接するならば、我々が彼等に全く好感を以て迎へらるゝことを確信するものである。(終)

日本ゴム工業印象記抄

G. M. Kraay

(West-Java Experiment Station, Buitenzorg, Netherlands East Indies)

I. R. W., 1936, 94, June, 60

大 木 七 郎 譯

日本には各種のゴム製品の製造に従つてゐる工場が 1,400 在り、設備の整つた最新式の大工場から無數の家内工業式のマッチ箱の如き小工場に至るまで多種多様である。之等の極小工場に於てはシートを普通の工場より下請し家庭内に於て様々の形に作り上げ、之を更に工場へ返して加硫を行ふのであるが、労働時間に對する規則と電力の低廉といふことが、かゝる家内工業の成立を可能ならしめてゐる。日本に於ける 1 kW·hr 當りの通常電力費は約 2 ギルダースセント(即ち平價にて米國金の 0.8 セント)であるが、大工場にては同じ 1 kW·hr 約 0.7 ギルダースセント(平價にて 0.28 セント)の割合で電力費を拂つてゐる。

日本のラテックス消費高は年々増加してゐる。日本人はラテックス工業が高價な大仕掛な機械の使用を不要とする點に於て特に家内工業に好適であることを逸早く悟つたらしく、ラテックスは比較的小工場及極小家内工場の間に殊に手袋の製造用として他に先んじて使はれてゐる有様である。陶器製の型をラテックスの中へ浸漬しそれを小さな火の上で乾燥するといふ方法に依つて若い女工達が家内工場に於て多數の手袋を造り出してゐる。彼等は必要な厚さになるまで此操作を繰返して行つてゐるのである。かゝる小工場向きのラテックスは通常のドラムから 18 l 入りの石油罐に小分けして販賣されてゐる。

私は多くの工場及其設備の簡単なことゝ而もその要領を得てゐる點、及職工の熟練してゐること

には驚いた。又 Hauser 博士と同様私も労働者の其仕事に對する殆ど宗教的な態度には深く注意を惹かれた。因に日本のゴム工場で用ひられてゐる機械は總て日本製であることを附記する必要がある。

臺灣其他日本領の島嶼に於て自らのゴム栽培事業を起さんとの企てが失敗に終つたために特に、合成ゴム及再生ゴムに對する一般の關心が高つてゐる。就中東京の某大學に於ては之等の問題に熱心で數個の附屬工場に於て廣汎な實驗を行つてゐる。

尙私はラテックス製絲ゴム及再生ゴム製品其他各種の日本製ゴム製品を將來したのである。(終)

寄 贈 圖 書 (其 2)

(昭和 11 年 7 月 1 日~31 日)

月 日	圖 書 名	寄 贈 者
7-1	南洋栽培協會々報 (10, No. 6)	南 洋 栽 培 協 會
7-2	I. R. I. Transactions (11, No. 6)	英 國 ゴ ム 工 業 學 會
7-4	化學工業時報 (9 年 27 號及 28 號)	化 學 時 報 社
7-6	日本化學總覽 (10, No. 7)	日 本 化 學 研 究 會
7-13	資 源 (6, No. 7)	資 源 局
"	月刊電力調 昭和 11 年 7 月	資 源 局
7-15	Rubber Age (39, No. 3)	パルマトン出版社
7-16	ゴム報知新聞 202 號	ゴ ム 報 知 新 聞 社
7-18	工業化學雜誌歐文綴 (39, No. 7)	工 業 化 學 會
7-20	石 鹼 化 學 (No. 17)	工 業 化 學 會
"	南洋栽培協會々報 (10, No. 7)	南 洋 栽 培 協 會
"	早稻田應用化學會報 (28 號)	早 稻 田 應 用 化 學 會
"	岸 橋 商 報 (47 號)	岸 本 商 店
"	化學工業時報 (9 年 29 號)	化 學 時 報 社
"	ゴ ム (40 號)	平 泉 洋 行
7-21	東洋ゴム新聞 (16 年 6 號)	東 洋 ゴ ム 新 聞 社
7-24	護 謨 工 業 (2 卷 6 號)	護 謨 工 場 組 合 聯 合 會
7-25	Industrial & Engineering Chemistry (28, No. 7)	米 國 化 學 協 會
7-28	化 學 工 業 (16, 7 號)	化 會 工 業 社
"	ゴム報知新聞 (203 號)	ゴ ム 報 知 新 聞 社
"	化學工業時報 (9 年 30 號)	化 學 工 業 時 報 社
"	化學工業時報 (9 年 31 號)	化 學 工 業 時 報 社
7-29	Industrial & Engineering Chemistry Analytical Edition (8, No. 1~4)	米 國 化 學 協 會
"	Industrial & Engineering Chemistry News Edition (14, No 1~12)	米 國 化 學 協 會
7-31	ゴ ム 新 報 28 卷 7 號	ゴ ム 新 報 社
"	工業調査彙報 14 卷 1 號	工 業 調 査 協 會